

富岡町災害復興ビジョン（案）に関する意向調査 とりまとめ

■意向調査の概要

- 本資料は、平成 23 年 12 月 8 日より実施してきた（12 月 23 日〆切）、富岡町災害復興ビジョン（案）に関する意向調査のとりまとめを整理したものです。ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。
- 本調査は、富岡町が発行する「広報とみおか」及びホームページに掲載した復興ビジョン（案）の概要をご覧ください、回答票を郵送により返信いただきました。
- 回答票は富岡町の全世帯に配布し、世帯主に限らず小学校高学年以上を含むご家族の皆様にご回答いただきました。
- 平成 24 年 1 月 11 日までに町役場に届いた 3,184 件の回答について集計の対象としています。

■とりまとめ結果

問 1 あなたご自身の性別、富岡町在住時の行政区、年齢層、避難先の都道府県名・市町村名、避難先の住居種別について、該当する項目の番号を回答欄にご記入ください。

【性別】

○男性（48%）、女性（51%）の比率はほぼ同じです。

【年齢層】

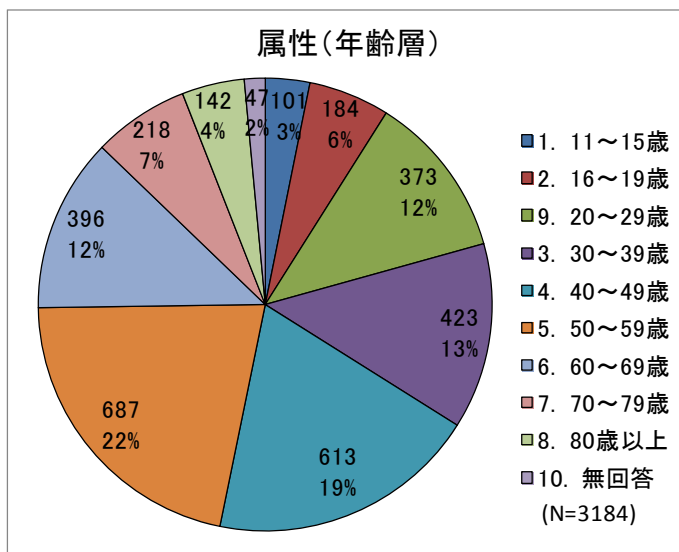
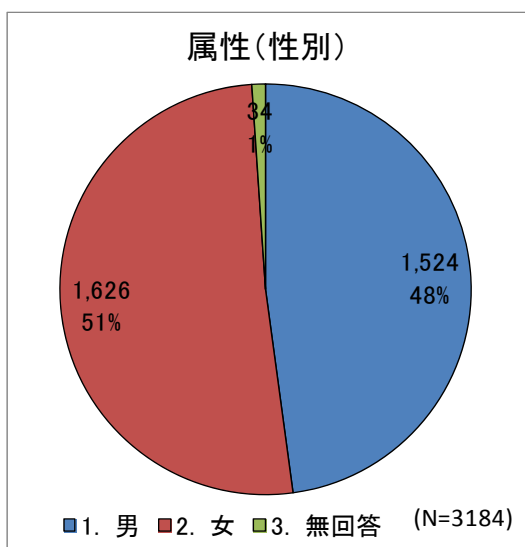
○50 代からの回答が 22%と最も多く、次いで 40 代（19%）、30 代（13%）となっています。10 代からの回答は 9%を占めます。

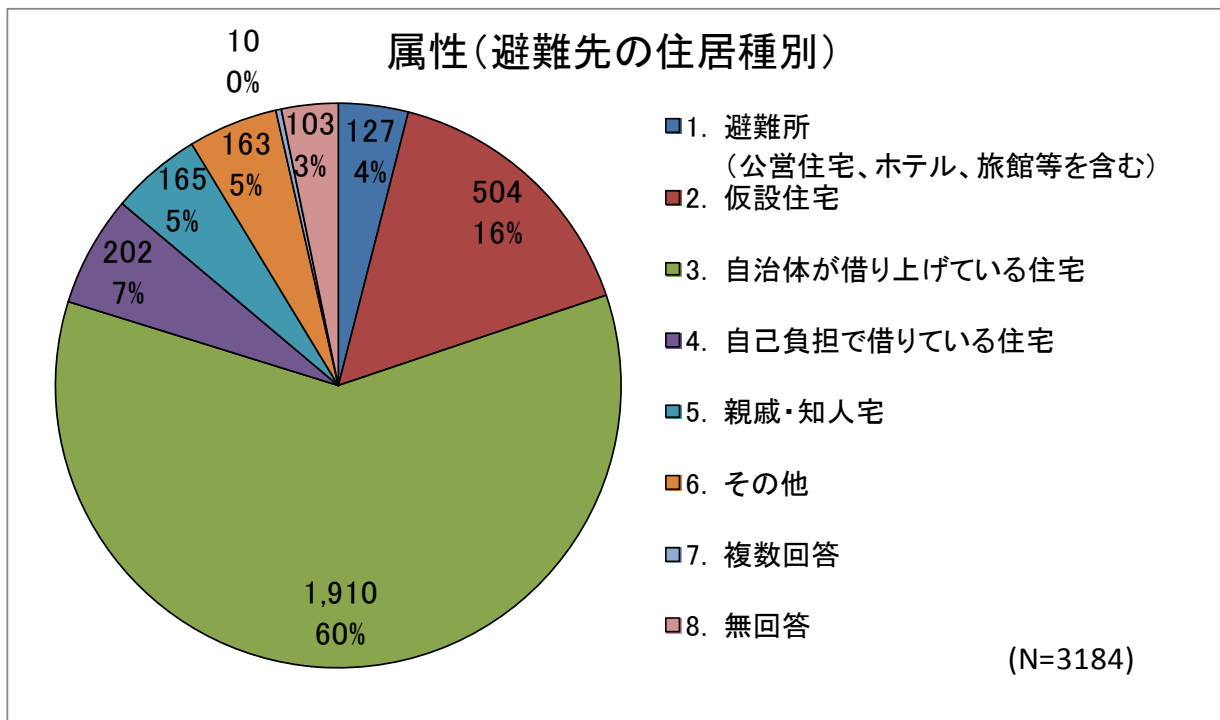
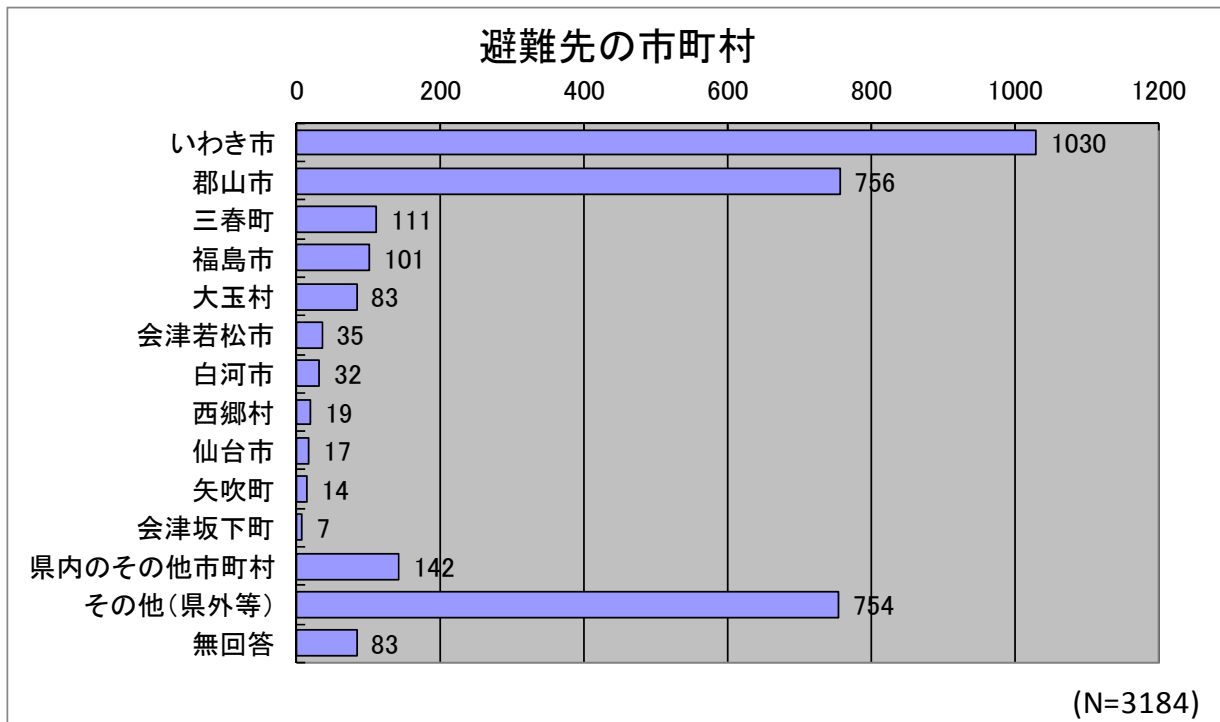
【避難先】

○いわき市（1,030 人）、郡山市（756 人）が圧倒的に多く、次いで県内の三春町（111 人）、福島市（101 人）、大玉村（83 人）となっています。

【避難先の住居種別】

○自治体が借り上げている住宅が 60%と最も多く、次いで仮設住宅（16%）となっています。



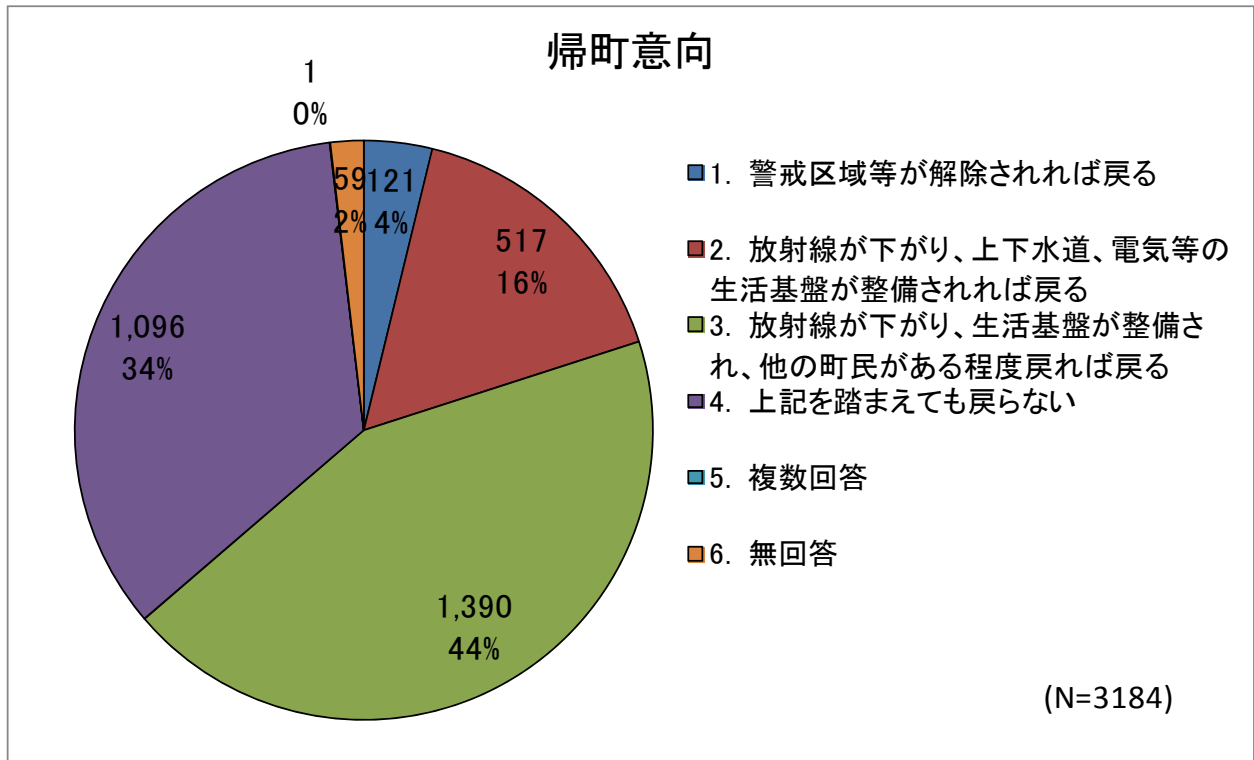


問2 あなたは富岡町に戻りたいと思いますか。(該当する項目1つを回答欄にご記入ください。)

1. 警戒区域等が解除されれば戻る
2. 放射線が下がり、上下水道、電気等の生活基盤が整備されれば戻る
3. 放射線が下がり、生活基盤が整備され、他の町民がある程度戻れば戻る
4. 上記を踏まえても戻らない →【問5へ】

○「放射線が下がり、生活基盤が整備され、他の町民がある程度戻れば戻る」が最も多く44%を占めています。

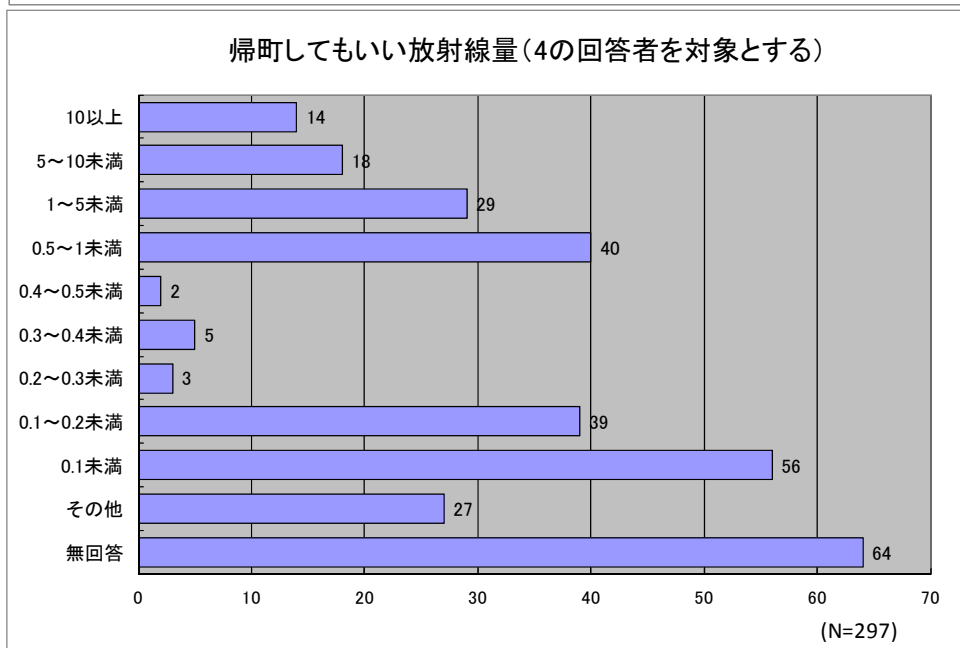
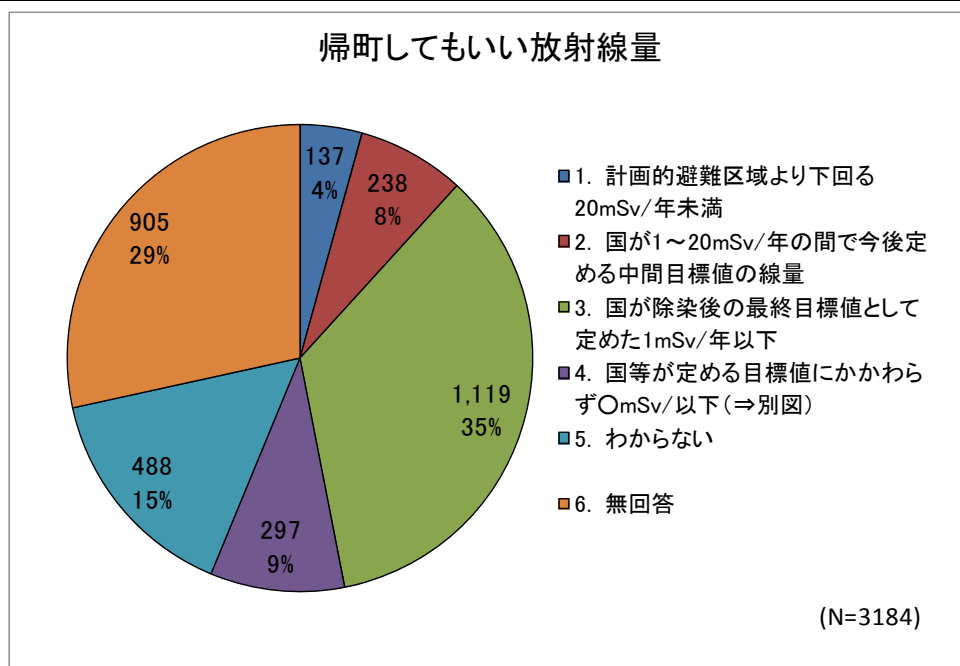
○条件が整っても戻らないという回答も34%を占めています。



問3 現段階において、放射線量だけを考えた場合、戻っても良いと考えられる放射線量の水準はどのくらいですか。(該当する項目1つを回答欄にご記入ください。選択肢の「4」についてはおおよその放射線量もご記入ください。)

1. 計画的避難区域より下回る 20mSv/年未満
2. 国が1～20mSv/年の間で今後定める中間目標値の線量
3. 国が除染後の最終目標値として定めた 1mSv/年以下
4. 国等が定める目標値にかかわらず _____mSv/年程度以下
5. わからない

○「国が除染後の最終目標値として定めた 1mSv/年以下」の回答が 35%を占めています。
 ○「無回答」「わからない」で 44%を占め、被害を及ぼさない放射線量をどのように判断してよいか判断しかねている人も少なくありません。
 ○国等が定める目標値にかかわらず放射線量としては 0.1mSv 未満が 56 人と最も多く回答しています。

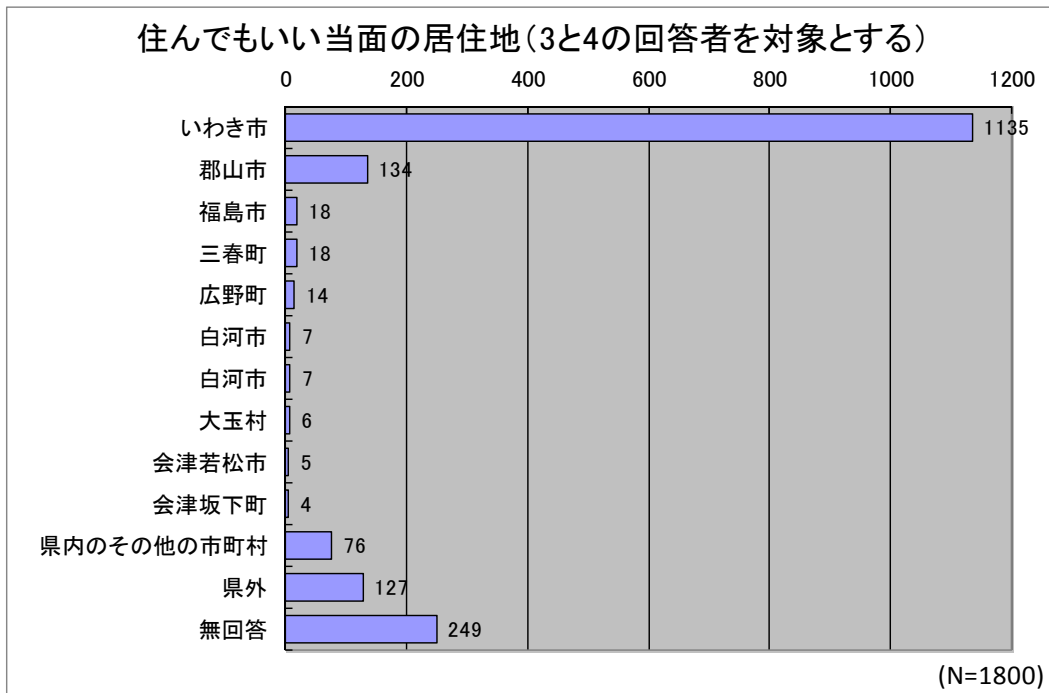
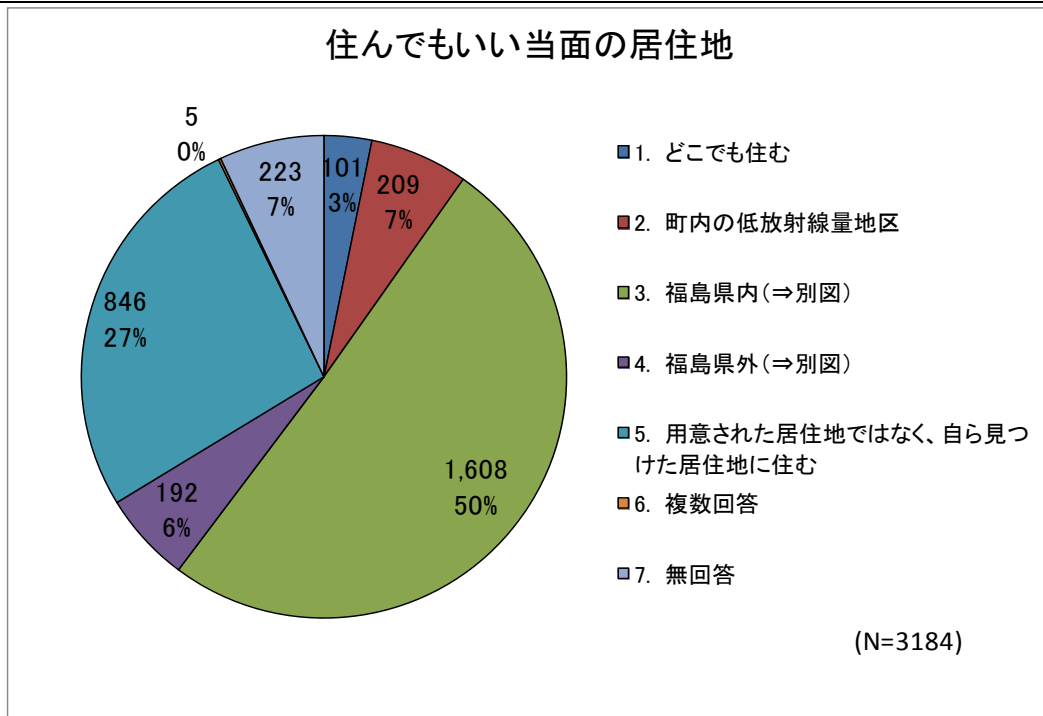


問5 自宅に帰還するまでの当面の居住地が仮に用意される場合、どこなら住みたいと思いますか。(該当する項目を1つ選んでその番号を回答欄にご記入ください。)

1. どこでも住む
2. 町内の低放射線量地区
3. 福島県内 (市町村名 _____)
4. 福島県外 (都道府県名 _____)
5. 用意された居住地ではなく、自ら見つけた居住地に住む

○「福島県内」と回答した人が50%と最も多く、次いで「用意された居住地ではなく、自ら見つけた居住地に住む」が27%を占めています。

○市町村名としてはいわき市が1,135人と圧倒的に多く、次いで郡山市(134人)となっています。

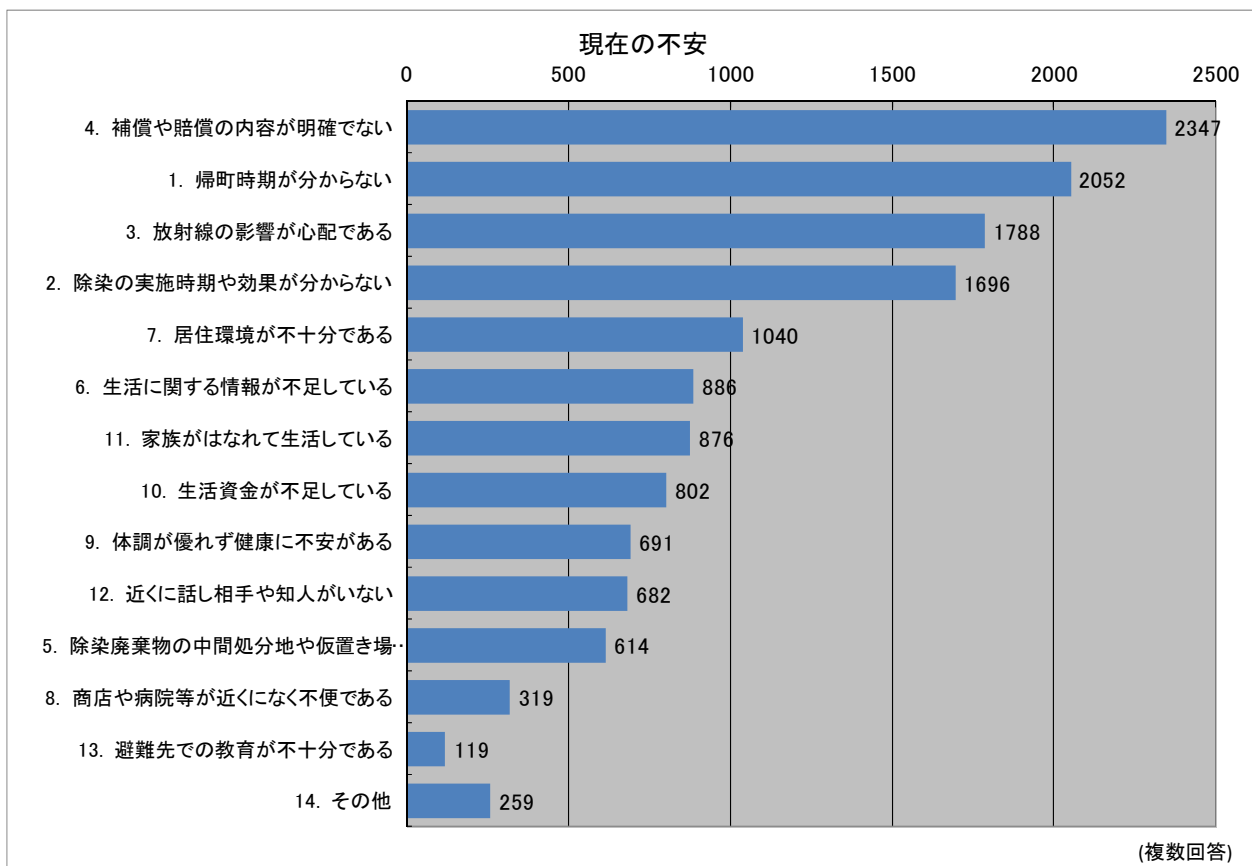


問6 現在、特に不安に思われていることは何ですか。(該当する項目を5つまで選んでその番号を回答欄にご記入ください。)

- | | |
|-------------------------------------|---------------------|
| 1. 帰町時期が分からない | 2. 除染の実施時期や効果が分からない |
| 3. 放射線の影響が心配である | 4. 補償や賠償の内容が明確でない |
| 5. 除染廃棄物の中間処分地や仮置き場が自宅近くに置かれる可能性がある | |
| 6. 生活に関する情報が不足している | 7. 居住環境が不十分である |
| 8. 商店や病院等が近くになく不便である | 9. 体調が優れず健康不安がある |
| 10. 生活資金が不足している | 11. 家族が離れて生活している |
| 12. 近くに話し相手や知人がいない | 13. 避難先での教育が不十分である |
| 14. その他 () | |

○「補償や賠償の内容が明確でない」を選択した人が2,347人と最も多く、次いで「帰町時期が分からない」(2,052)、「放射線の影響が心配である」(1,788人)、「除染の実施時期や効果が分からない」(1,696人)となっています。

○生活再建の目途が立たない状況や放射線の影響に関する将来の見通しへの不安の回答が多い状況にあります。



- 問7 ビジョンに記載されている「**町民の生活再建及び帰町までの取組方針**」について、修正のご意見があれば上覧に、新規提案の取組方針があれば下欄にご記入ください。
- 問8 ビジョンに記載されている「**帰町後の町の復興に向けた取組方針**」について、修正のご意見があれば上覧に、新規提案の取組方針があれば下欄にご記入ください。
- 問9 その他ご意見等ご記入ください。(特に基本理念や当面の重点プロジェクト等についてお願いします。)

○問7～問9は自由記述により回答を頂きました。主な意見の傾向は以下のとおりです。

- ・除染をどのように実施するのか。(山林なども徹底的にやってほしい/どうせ無理だからお金を無駄に使わない方がよい)
- ・事故処理が収束していない状況で除染をしても、その後に何かあるかわからないので無駄になるかもしれない。
- ・帰町時期はいつになるのか。
- ・子どもが住めるような、若者が帰ってきたくなるような環境にならないと帰町することはできない。
- ・絶対に帰らない。/早く帰りたい。
- ・元の富岡に戻してほしい。/もう昔のような姿には戻らない。
- ・復興ビジョンで示された取組方針に基づき、具体的に何を、どのような工程で実施するのか。
- ・復興ビジョンで掲げている取組は本当に実現できるのか。
- ・住宅再建や補償の問題をきちんと進めてほしい。国や東京電力との交渉は町が窓口となってほしい。
- ・除染をするくらいなら、そのお金を使って賠償問題の解決や住宅再建にあててほしい。
- ・早く町営住宅を建設してほしい。
- ・富岡に帰るのは難しい。いわき市などでまとまった居住地を用意してほしい。
- ・早く方針を決めてもらわないと、その後の生活設計が立てられない。
- ・一時帰宅をもっと増やしてほしい。家がどうなっているか心配。
- ・先行きの見えない状況が不安。情報がもっとほしい。
- ・仮設住宅と借上げ住宅で、サービスの状況が違う。平等にしてほしい。
- ・原発に依存しないで産業を再興するというのは、現実的に難しいのではないか。/原発に依存しないで企業誘致などしてほしい。
- ・町の復興のためには、町単独では解決できない問題が多い。市町村合併をして取り組むべき。